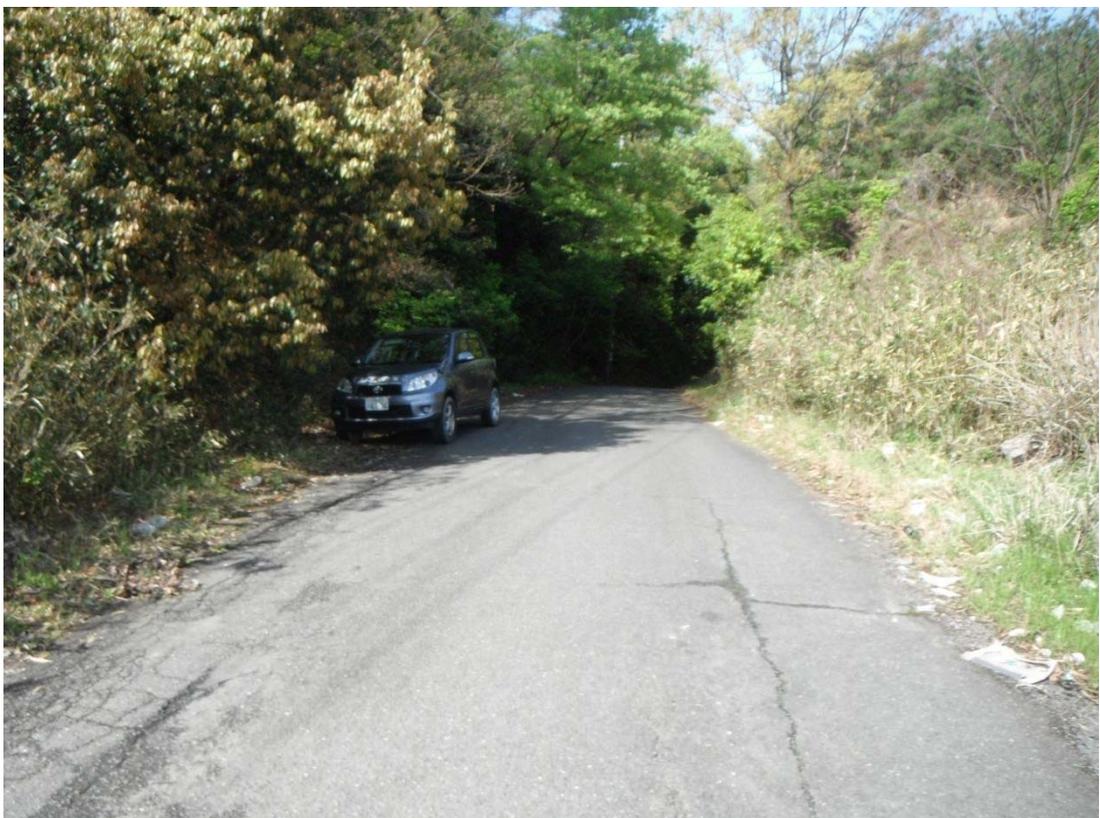


地表地質踏査結果写真集



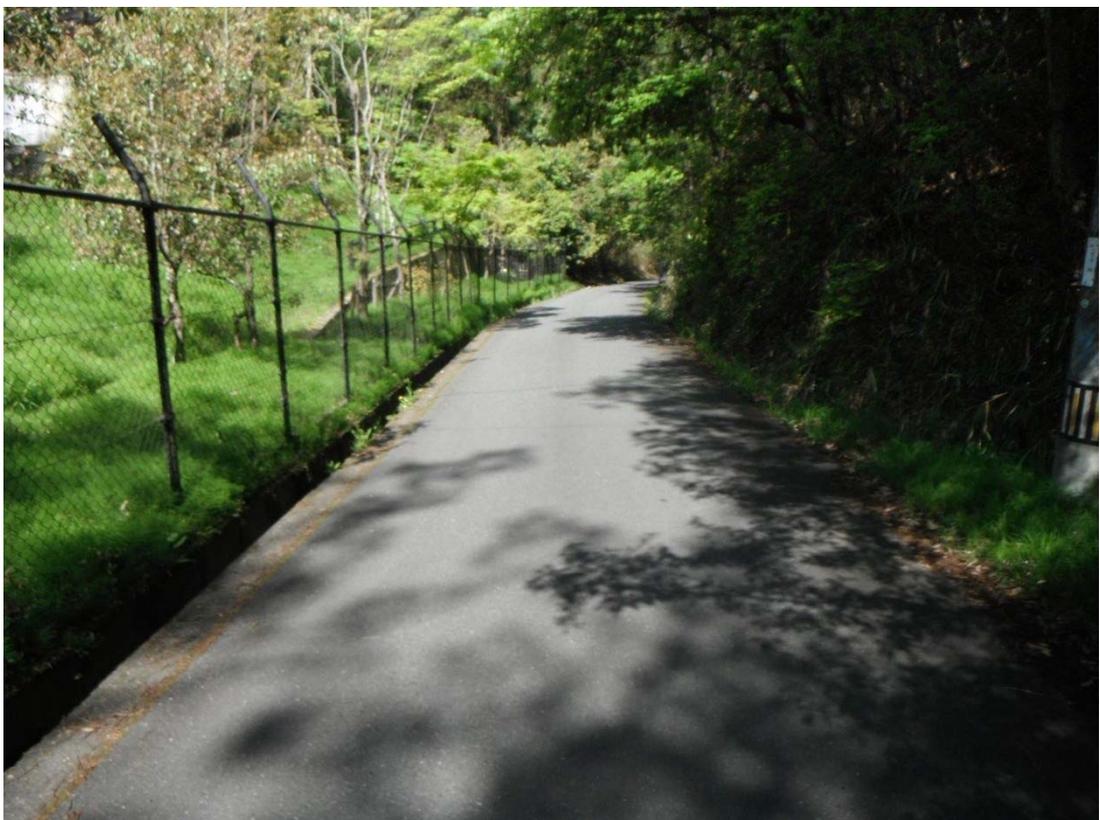
P-1 : 採石場跡地。



P-2 : 市道東部 285 号線。



P-3 : 市道東部 285 号線。



P-4 : 市道東部 285 号線。左側は鹿野園排水池施設が立地する。



P-5 : 計画道路と現況道路の取り付け部付近。



P-6 : 計画道路と現況道路の取り付け部付近。



P-7 : 崩壊末端の小崩壊。滑落崖が二段になる。



P-8 : 崩壊の左側にはDHの風化した礫岩が露岩する。礫の混入は非常に少なく、基質部が支配的である。



P-9 : 上段のポールの滑落崖は土砂が分布し、下段は露岩する。



P-10 : 上段ポールの滑落崖。シルト混りの礫混り土砂である。土砂は崖錐性であり厚く堆積している。



P-11 : 小崩壊。滑落崖を観察すると、岩盤は見られず土砂が分布している。



P-12 : 凹型の侵食地形。



P-13 : 礫岩露頭。節理が発達する。N41E 85N の走行傾斜で、幅 1~5cm の開口した亀裂が確認される。



P-14 : 円磨した硬質礫を含む礫岩。DH。φ2~10mm が主体で、最大φ20mm 程度である。基質が軟質のため礫の抜け落ちが見られる。



P-15 : 円磨した硬質礫を含む。基質が支配的で礫の混入は劣勢である。基質はDH。花崗岩、黒色頁岩、チャートからなる。



P-16 : DH 級の基質はマサ状である。硬質な礫が主体であるが稀にクサレ礫を混入する。
(写真中央に黒色頁岩のクサレ礫が混入する。)



P-17 : 市道ののり尻沿いに露頭が確認される。写真中央部は、DH の風化した礫岩。



P-18 : 崩壊下部。樹木等が植生し崩壊時期は古いものである。崩壊下部では土砂が厚く堆積している。



P-19 : 滑落崖直上の平坦部。



P-20 : 崩壊中腹～上部。計画では切土区間にあたる。古い崩壊で近年動いた形跡は見られない。堆積土砂は比較的厚い。



P-21 : 崩壊中腹～下部。



P-22 : 尾根筋に露出した礫岩。CL-CM。礫は硬質だが、基質部は若干軟質で、ハンマーでわずかに削ることができる。



P-23 : 尾根斜面で表層土は薄い。



P-24 : 山体頭頂部付近に露出する礫岩。基質部はピックハンマーで削れる程度の硬さである。CL-CM。



P-25 : 崩壊頭部。滑落崖は明瞭である。



P-26 : 崩壊下部～中腹部。樹木が生えており、崩壊時期は古いと思われる。



P-27：切土区間内の崩壊。滑落崖を観察するとシルト混りの礫混り土砂が分布している。



P-28：崩壊の上部～中腹部。樹木等が生えており、近年動いた形跡は見られない。土砂厚は比較的深いと思われる。



P-29 : 尾根筋に露出する礫岩。CL-CM。



P-30 : 基質部が支配的で礫の混入は非常に少ない。基質部はピックハンマーで容易に削れる程度の硬さ。



P-31 : 尾根の形状がしっかりしており、岩盤は浅部に分布していると思われる。



P-32 : 尾根筋に露岩する礫岩。CL-CM。